



平成 25 年 6 月 1 日号

社会福祉法人 緑峯会 特別養護老人ホーム セントポーリア愛の郷



セントポーリアの周りの木々がいつの間にか新緑に染まった 5 月 12 日(日)、
『母の日会』が開かれ、ご入居者・ご利用者とその家族の方々に行事食をご賞
味頂きました。

「目には青葉 やまほととぎす 初鰹」

これは江戸時代の俳人山口素堂の句として有名です。今日鰹は 3 月には店
頭に並びますが、厳密に言うと初鰹の時期とは旧暦の四月朔日から一週間以
内に関東沖で獲れたものだけを指すようです。江戸っ子たちの間では初物を食
べると 75 日は長生きすると言われていたそうですが、特に初鰹は 10 倍の 750
日間長生きすると信じられていたため、とても高価だった時期もあったようです。
この日お出しした行事食にはご入居者・ご利用者のご長寿を願い、鰹のたたき
が入っておりました。

各ブロックで食事がひと段落ついた頃、毎年恒例となりましたが、理事長から
ご入居者・ご利用者全員に真紅のカーネーションが手渡されました。女性はや
はり花がお好きとみえ、皆さんに喜んで頂きました。その後、地域交流室では当
施設が誇る音楽療法士二名による『母の日会・歌声広場』が催されました。『故
郷』・『翼をください』・『糸』・『START』・『ONE』・『秋桜』をギターで演奏しま
した。

ところで、セントポーリアのご入居者・ご利用者の女性の大半が大東亜戦争を
経験された世代です。戦争によって肉親と別れたままになった話は星の数ほど
ありますが、母が戦地から帰還しない息子を待つというイメージの代表格は“岸
壁の母”になるでしょう。二葉百合子が歌った『岸壁の母』のモデルとなったのが
[端野いせ]さんで、息子の新二さんの帰国を信じて舞鶴港の棧橋に立ち続けた
ことはよく知られています。いせさんは昭和 56(1981)年に逝去しますが、そ
れから 19 年後の平成 12(2000)年、新二さんが上海で生存しているという報道
(『京都新聞』)がありました。ずっと新二さんは戦地で死亡したと説明してきた舞
鶴引揚記念館ではこの報道に困惑を禁じえなかったようです。

〜各種委員会活動〜

此の度、全介護職員を対象に、2年間所属する委員会をアンケートを実施して決定しま
した。これにより平成 25 年 6 月 16 日より新メンバーによる委員会活動がスタートしま
す。委員会は全部で 17 種類あり、それぞれ年間のテーマを決めて取り組んでいます。『如
何にしてご入居者・ご利用者に安全で快適な生活を送って頂くか』に基づいて、より良い
介護サービスを入浴・排泄・食事介助を中心に行っていきます。新たに任命された委員長
の下、介護サービスの質の向上に全員で取り組んでいます。



【理事長 北嶋勇志】
母の日会で女性ご入居者・
ご利用者全員にカーネ
ーションを手渡す。
(2013年5月12日母の日会)

日常生活において”けが”はつきものです。「いざ」というときのために応急手当に関する知識を得ておくことは重要な事です。

” 応急手当の基本について ” をシリーズで掲載します。

急性アルコール中毒

アルコールは麻酔薬であり、飲酒時には特に中枢神経が抑制されます。まず、脳の最も末梢である脳表面の、理性をつかさどる新皮質に作用し、抑制の力が取れて陽気になったり、感情的になったり、平衡感覚が乱れたりします。

麻酔作用が少し深くなると、脳の旧皮質である粗暴な動物的行動が現われて凶暴になったり、大声で騒いだりする酩酊状態になります。さらに深くなると暴れる状態を通り過ぎ、泥酔状態に陥ります。

さらに進めば、脳の最も深い脳幹部にまで作用して呼吸中枢の抑制が起こり、死に至ることもあります。

アルコールは、速やかに胃から吸収され、肝臓で代謝されます。アルコール脱水素酵素によって酸化されて、アセトアルデヒドや酢酸となり、排泄されます。アセ



トアルデヒドには交感神経刺激作用があり、悪心、嘔吐、動悸、頭痛などが出現して比較的長時間続くので、いわゆる二日酔いにもなります。

重症例では、血管拡張作用により血圧の低下、乳酸の増加により血液が酸性に傾くいわゆるアシドーシスが見られます。また熱中症、溺水、けんか等、屋外の事故の原因にアルコールの関与が取り沙汰されることも多いですね。



春は学生や新入社員の歓迎会のシーズンで、例年、急性アルコール中毒が増加します。屋外で寝てしまい、低体温で発見される場合もあります。急性アルコール中毒は、重症に陥ると命を落としかねないことに注意しなければなりません。飲めない人に無理に飲ませたり、飲める人にでも短時間に大量に飲ませたりすることは厳に慎みましょう。酔って意識がもうろうとなった場合には、衣服を緩めて楽な姿勢で安静にさせましょう。仲間の酔い方が普段と違う場合には、医師の診察を必ず受けさせて下さい。

からだに美味しく効率よく栄養をとりましょう (1)

管理栄養士 前田佐江子

糖質+ビタミン B₁+アリシン、硫化アリル

糖質が体内でエネルギーに変換されるためには、補酵素としてビタミン B₁ が不可欠です。これが不足すると代謝がうまくいかず、疲労感などを感じます。

さらに、ビタミン B₁ の働きを助けるアリシンや硫化アリル (にんにくやねぎ類の香り成分) をいっしょにとるとより効果的です。

糖質やビタミン B₁ を含む玄米やパスタ、

さらに、葱や玉葱を入れた玄米チャーハンやにんにく入りパスタなど

ビタミン A+油脂

緑黄色野菜に多いβ-カロテン (体内でビタミン A に変わる) は、油脂に溶け込み吸収されやすくなるので、油と一緒にとると吸収率が高まります。油を使った調理法にしたり、脂肪を含む食品と組み合わせたりするとよいでしょう。

緑黄色野菜のサラダ、ソテー、胡麻和えなど

ビタミン C+ビタミン E

ビタミン C にはビタミン E とともに抗酸化作用があり、老化やがんの予防に有効です。C と E をいっしょにとると、いっそう抗酸化力が高まります。

ビタミン C は野菜や果物、ビタミン E は魚介や植物油、ナッツ類に含まれます。

ナッツを加えたドレッシング、ピーナッツ和えなど

栄養素は共同で働いており、バランスが大切です。ひとつで、必要な栄養素をすべて満たすという食品はありませんので、いろいろな食品を組み合わせることで食べることが大切です。



ごちそうクラブ 4月23日<火>

管理栄養士 前田佐江子



4月23日にごちそうクラブを行いました。その日の昼食『岩国寿司』に合わせて、「汁物がいいね。」とけんち

ん汁を作りました。具沢山で、切る作業が多かったのですが、さすがです！予定より早く切り終わってしまいました。味付けは皆さんのこだわりがあり、譲れません。一つは煮込んで白味噌仕立てに、もう一つは胡麻油で炒めて醤油ベースの味に、と2種類のけんちん汁を作ることになりました。醤油仕立てのけんちん汁は、普段車椅子を使われる方が味付けをしてくださいましたが、30分程度立ったままで、胡麻油が具材に馴染むまで丁寧に炒めてくださいました。「こんなに長い間、立っていたのは久しぶりだけど、大丈夫だったわね。それより、お味はどうだったかしら？」と、とてもいきいきとした表情でした。

「家庭の味でとてもおいしい」と沢山あった2つの鍋はあつと言う間にからっぽになっていました。

4月・5月にご協力いただいたボランティアの皆様ご協力ありがとうございました。

(敬称は省略させていただきます)

折り紙	: 廣瀬公子
絵手紙	: 中川孝一
ピアノ	: 重松久代
書道	: 溝口佳子
お誕生日会	: 市川ご夫妻 北嶋庸子
養喜会	: 津田寿三雄
なかよしグループ	: 西村敦子 平原多加子他
ネイルアート	: 池田香織 (三田駅 Nails-Khao)
お楽しみ会	: 中南正、中南ヒロ子、乾富子、 清水昭司、いろどり姉妹
日本舞踊	: 若柳寿三輝 (花はづきの皆様)
演芸	: 西谷睦会の皆様
車椅子ダンス	: 袋布健二郎・恭子ご夫妻他
社交ダンス	: 櫻間光彦・袋布ご夫妻他



4月12日(金)
花はづきの皆様

西谷睦会引退公演



一日(土)	アカペラ公演
五日(水)	お誕生日会
九日(日)	父の日会
十一日(火)	折り紙
十二日(水)	仲良しグループ
十九日(水)	書道
二十一日(金)	お楽しみ会
二十四日(月)	マンドリンクラブ
二十日(水)	絵手紙
二十七日(木)	ピアノ

六月の行事

※予定は変更になる場合があります。

昭和青春誌 一八二八(昭和十一年)
王城の叛逆者 小説二・二六事件【5】

東条が国政の表舞台に登場したのは昭和十五(一九四〇)年七月二十一日、第二次近衛文麿内閣の陸相に就任した時であった。就任後約二カ月で日本は対米英戦への流れを決定的にしたと言われる日独伊三国軍事同盟を締結するが、これを主導したのは外相の松岡洋右であった。三国同盟締結の目的が、**泥沼化する日中戦争を終結させるため**と説く松岡に、東条陸相率いる陸軍は大々的に支持したのに対し、海軍は独国との同盟は日本を米英との戦争に巻き込む可能性が高く、ワシントン会議及びロンドン会議を経て、米英を相手に勝てるように設計された艦隊戦力ではないことを承知していたため、心労のため辞任した前任海相の吉田善吾まで一貫して同盟締結には反対してきた。

※下に解説

及川海相は賛成にまわった理由として自動参戦義務条項が外れたことを挙げた。すなわち昭和十四(一九三九)年九月に始まった英・仏国と独・伊国との戦い(第二次世界大戦)に参戦していなかった米米国と新たに独・伊国が交戦状態となっても、日本が自動的に独国側に与して参戦する義務はないとするものであったが、問題はそういう点ではなく、同盟を結んだ段階で日本がファシスト陣営に完全に与したと見られることにある。そしてその危惧は早くも現実としてあらわれた。

翌昭和十六(一九四一)年四月、日米両国は三国同盟締結後の関係悪化を改善すべく、日米交渉を開始したが、米国は片方の手で独国と結びながら、もう片方の手で米国に譲歩を求める日本を信用できないとして交渉は遅々として進まず、いたずらに時間が流れた。同年八月初頭より米英中蘭による対日石油全面禁輸という過酷な経済封鎖に喘いでいた日本は石油備蓄量を睨みながらいつまでもダラダラと交渉を続ける訳にはいかず、一定のタイムリミットを設定する必

要に迫られた。そこで同年九月六日に策定した『帝国国策遂行要領』によりそれを同年十月上旬としたが、リミットが来ても戦争を決意できない近衛首相は十月十五日、東条陸相と及川海相を呼び、海相の口から「対米英戦争不可」を言わせて東条と陸軍から日米交渉進展に必要な譲歩、すなわちこの頃の米国の関心事は三国同盟から中国大陸からの日本軍の無条件即時撤兵に移っており、それを東条に迫ろうと図った。

『東条と陸軍が戦争を始めた』との通釈はもしかしたら正鵠を得たものではないかも知れない。つまり東条陸相の即時開戦論とは、「海軍は石油が無くなつてからは戦ができませんと言うなら、早く日米交渉を打ち切つて開戦した方が有利」とする正論であり、同時に、「米国と戦となつたら海洋が主戦場でまさに海軍の仕事だから海軍ができないならできない戦争だ」とも語っていた。また東条の腹心であった武藤章陸軍省軍務局長も、「及川さんができないと言ってくれたら、俺が東条陸相を抑える」と海軍省軍務局長岡敬純に連絡していた。しかし及川海相は、「和戦の決定は総理に一任」と、下駄を近衛に預け、一大好機を逸した。

万策尽きたと判断した近衛は内閣を投げ出し、昭和天皇は木戸幸一内相の推薦を受けて東条に後継首班の天命を下した。木戸は内心もはや開戦回避は難しく、それでも万に一つあるならば、日米交渉妥結の最大の障害となつていた『中国大陸からの無条件即時撤兵に反対する陸軍』を東条自身に説得させるしかないと判断した。天皇はこの時の心境を、「虎穴に入らずんば虎子を得ずだね」と洩らし、東条首相に、リミットにとらわれることなく日米交渉妥結に努力することを内容とした『白紙還元の御詔』を下した。(続く)



おいかわ ことしろう
及川 吉志郎



きと とういち
木戸 幸一

※日本が日独伊三国同盟を締結した背景は同盟が昭和 12(1937)年 7 月以来、泥沼化する日中戦争を終わらせる決定的手段になるのではとの期待が陸軍にあったからだ。すなわち、重慶にこもった蒋介石政権が命脈を保っていたのは米英が公然と日中戦争に介入し東南アジアから支援助物資を輸送(『援蒋ルート』)していたからで、当時独国の猛攻を受けている英国をして日本が同盟を背景に東南アジアの英領植民地に侵攻してくるのではと恐れさせることで、自発的にルートを閉鎖させようとした。



伽耶院仁王門



伽耶院本堂



粋な伽耶院入山料看板



伽耶院近くにある断層

三木市中心街から車で約 15 分、東播磨の古刹【伽耶院】があります。もともとは【大谿寺】と言い、伽耶院の名称は江戸時代に命名されたものですから、古代朝鮮半島南部にあった伽耶とは全く関係はありません。開基は法道仙人と言われ、有名な大化の改新があった年である 645 年に創建されました。平安時代には大規模な伽藍をほこっていましたが、今は往時の姿はなく、豊臣秀吉の三木攻めによる兵火もあって現在の堂塔は全て江戸時代に再建されたものです。印象としては観光客用に整備が行き届いた寺とはとても言い難いですが、その分、入山料は無料で、代わりに「草ひき十本」と粋な言葉が書かれた看板があり、また近くでは断層も見ることができ、そこはちょっとした名所となっています。

当山を訪れる方のお目当ては 1647 年に再建された多宝塔でしょう。重文で江戸時代（17 世紀中頃）に小倉城主小笠原氏の寄進を受けたものです。また当山は江戸時代には天台宗系山伏を統率する四院家として修験道の世界で威を

多宝塔

多宝塔と呼ばれる仏塔は韓国にも見られますが、日本のそれは初重を平面方形、二重を平面円形につくる独特のフォルムを持ち、その美しさに魅了され、全国の多宝塔だけを目当てに仏閣を巡るファンもいると言われています。原型は平安時代初期に空海が高野山に建立を計画し、没後に完成した宝塔に求めることができます。よって国宝・重文クラスが多宝塔の多くは空海を開祖とする真言宗と多宝如来の働きを説く法華経を絶対視する日蓮宗寺院に見られます。日本最古の多宝塔は滋賀県石山寺(国宝・鎌倉時代初期)にあります。

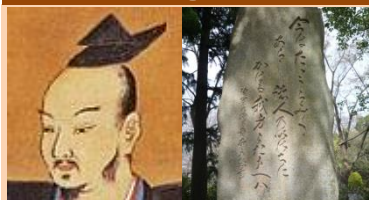
べっしよながはる



伽耶院多宝塔

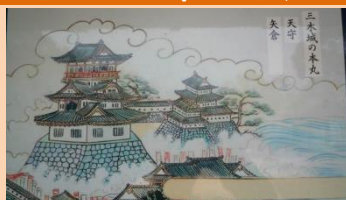


石山寺多宝塔



別所長治

長治辞世の碑



三木城攻防戦



別所長治の自刃



雲龍寺・長治公夫妻の首塚

城攻めが上手であった豊臣秀吉生涯の攻城戦の歴史において、“三木の干殺し・鳥取の渴え殺し”は代表的兵糧攻めの代名詞として使用されるほど凄惨を極めた戦いでした。天正 4 (1576) 年 1 月、織田信長は近江国に安土城を築城開始、それに連動し中国地方の毛利氏を睨んで、重臣明智光秀による丹波国、同じく重臣羽柴秀吉による播磨国攻略が本格化、既に播磨には毛利氏の影響が深く及んでいましたが、当初織田方に属していた東播磨の要衝三木城主別所長治が天正 6 (1578) 年 3 月、突如毛利方に寝返りました。

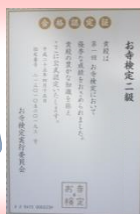
長治謀叛の原因は後世にいろいろと取沙汰されましたが、長治の正室の実家で、既に 2 年前に信長に叛き、この時は丹波国八上城(現在の篠山)に籠城していた波多野秀治との連携説もその一つです。三木城には約 7,500 の兵が籠城、毛利氏より物資の支援も始まり、また同年 10 月、信長の重臣で三木城とは六甲山を隔てて南に位置する摂津国岡城主(現在の伊丹)の荒木村重も叛いて毛利方についたため、長治にとって有利な戦局となった時期もありました。しかし相次ぐ謀叛に業を煮やした信長は秀吉と光秀に徹底した掃討を命じた結果、天正 7 (1579) 年 6 月に八上城が、同年 11 月には有岡城が相次いで陥落、毛利氏の支援も絶たれた三木城は兵糧が底を尽きました。翌天正 8 (1580) 年 1 月、別所長治は城兵の生命と引き換えに秀吉に降伏し、照子夫人とともに自刃しました。

辞世 「今はただ 恨みもあらじ 諸人の 命に代はる 我身と思へば」 (別所長治)

辞世 「よわりける 心の闇に 迷はねば いで物見せん 後の世にこそ」 (波多野秀治)

苦情相談窓口の注意事項

苦情相談は苦情受付担当者を窓口として苦情相談受付ボックスにて受け付けております。ユニットの介護・看護職員でなく、苦情受付担当者にお申し出下さいますようお願い申し上げます。ご協力の程よろしくお願い致します。



〜歴史検定ブーム〜

どうやら世の中、歴史検定ブームのようで、さる 3 月、第一回『お寺検定』を受験しました。最高が 2 級で、レベルは奈良や京都でボランティアとして仏閣・仏像のガイドができるくらいでしょうか。辛くも合格しました。次は 6 月の第二回『神社検定』(最高 2 級)に挑戦、地域の名刹名社を連載する者としては必須の資格です。